

# 第4回滑川市総合計画審議会及び 第4回滑川市ひと・まち・産業創生総合戦略策定委員会 議事概要

日時：令和2年9月25日（金） 19：00～21：00  
場所：滑川市役所本館3階大会議室

## 【委員】

役職	氏名	備考
滑川市医師会 会長	伊井 祥	
滑川商工会議所 会頭	今家 英明	
連合富山新川地域協議会滑川ブロック長	浦島 成友	欠席
滑川市社会福祉協議会 会長	加田 洋一	
富山県新川土木センター 所長	加藤 陽一	代理出席 山田次長
アルプス農業協同組合 代表理事組合長	佐伯 敏隆	
滑川市自治会連合会 会長	澤田 隆之	副会長(副委員長)
市民公募委員	下村 豪徳	
滑川市民生委員児童委員協議会 会長	砂子 良治	
富山県中部厚生センター 所長	長瀬 博文	
市民公募委員	鍋谷 智子	
富山県私立幼稚園・認定こども園協会 監事	蛭川 徳子	
滑川漁業協同組合代表理事組合長	萩原 金吉	代理出席 児島参与
滑川市連合婦人会 会長	原 洋子	
滑川市体育協会 会長	八橋 謙二	欠席
富山県新川農林振興センター 所長	山岸 和重	欠席
滑川市小・中学校PTA連合会 会長	山口 一太郎	
富山大学名誉教授	山西 潤一	会長(委員長)
滑川青年会議所 理事長	吉森 真人	欠席
北陸銀行滑川支店 支店長	上田 和也	総合戦略策定委員
北日本新聞新川支社 支社長	魚津 悟司	総合戦略策定委員

## 【幹事】

滑川市副市長	石川 忠志	
滑川市教育長	伊東 眞	
滑川市総務部長	石坂 稔	
滑川市産業民生部長	網谷 卓朗	
滑川市産業民生部理事	藤田 博明	
滑川市建設部長	岩城 義隆	
滑川市教育委員会事務局長	上田 博之	

## 【議題次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
  - (1) 第5次滑川市総合計画基本構想・基本計画（素案）について
  - (2) 第5次滑川市総合計画前期基本計画（各基本施策）について
- 4 閉 会

## 主な発言内容

□会長あいさつ

□欠席委員報告、資料確認等

会 長：それでは次第に沿って進める。まず(1)第5次滑川市総合計画基本構想(素案)についてについて、事務局から説明されたい。

□事務局説明(1)(資料1・2)

□説明事項の質疑応答

委 員：資料1の9ページ「住みにくい点」で30代において「医療」が第3位に挙げられているが、出産の不安があるということなのか。

事務局：全世代では10年前のアンケート調査では、医療・福祉等への不安が45%程度だったものが、今回は25%程度と改善しているが、住みにくい点として30代で3位・40代で2位として挙げられているということで、出産環境も1つの要因になっている可能性がある。

事務局：アンケート項目自体が医療全体という漠然としたものを対象としており、住みにくい点として挙げた要因が出産についての医療環境なのか、在宅医療なのかといった細かい分析ができないものとなっているので、その点をご容赦いただきたい。

委 員：全体が少しイメージしづらい。資料2の2ページの後に資料3が入るという説明があったが、通常であれば2ページ目の政策体系について、もう少し肉付けがあるものではないかと思うが、その辺はどうなのか。

会 長：全体の建付けがどうなっているかということか。

事務局：政策体系については、基本施策と総合計画の関係を一覧するというものになっており、個別具体的な内容はその次のページからの資料3に記載し、資料3の後に総合戦略について記載するという建付けで考えている。総合戦略はあくまでも基本計画の中から地方創生に向けた取組みをピックアップして形作ることと考えているため、まずは基本計画について記載した後、総合戦略を後に載せるという形で考えている。

委 員：3本の幹(将来像)があって、太い枝があって、そこから枝葉(各基本施策)に繋がっていくものと思うが、太い幹から枝葉への繋がりが見えにくいように

思う。

**事務局**：幹というか大きな方向性としては基本構想の11ページに、「ひと・まち・産業が元気なまち」というものがあり、その中で3つの将来像ごとに中間的な政策として12ページ以降で示している。そちらが幹と枝として考えており、それぞれの政策の小枝というか具体的なものについては、基本計画の中で載せている。ただ、基本構想と基本計画は別のものとして考えており、基本計画は5年を目途に見直すため、基本構想とは別に策定することとしている。

**会 長**：資料2の2ページを見ると全体の構成が良く分かると思う。3つの将来像があって、それを実現するための政策、そして各分野別の基本施策がある。その右側に総合戦略として黒丸があるが、これは重点的なものか、それとも関連するものを示しているのか。

**事務局**：関連するものを示している。30の基本施策の中で4つの分野横断的な総合戦略の基本目標に該当するものを黒丸で示している。

**会 長**：全く黒丸がついていないものでも、3青少年健全育成の推進や、4生涯学習の充実といったものは、人の交流ということで総合戦略に該当しそうな気がするがいかがか。

**事務局**：4つの戦略については、人口減少や地域経済縮小の克服、人の流れや賑わいの創出など、国の第2期総合戦略に歩調を合わせ、いわゆる地方創生に資する取組みを黒丸で総合戦略として位置付けている。現在印のついていないものでも、今後の取組みによっては、黒丸がつくものもあると思うが、現時点で検討されている取組みに応じた関連状況を示している。

**会 長**：それでは、より具体的な部分についてということで、資料3について事務局から説明されたい。

#### □事務局説明(2)-1(資料3 基本施策1~12)

#### □説明事項の質疑応答

**会 長**：2学校教育の充実で、施策の目指す姿は、まさにそのとおりだと思うが、学力だけでなく、「生きる力」が育まれるのを目指すということなので、現状は、施策の達成目標が学力に関するものだけだが、全国学力調査の中には、学習状況調査も入っているので、指標の表現を学習状況調査も含めるような形に変更できないか。「自ら課題を見付け、学び…」とある目指す姿を踏まえると、単なる教科数だけでいいのかという気がする。それから、4生涯学習の充実で、施策の目指す姿について、生涯学習の目指す姿が平成23年ごろに変わり、生きがいや喜びだけではなく、学んだ成果を活かして地域課題に取り組むといったことも目的とされている。ここに書いてあることだけでは従来の生涯学習で、これからは、学んだ成果を活かすということが重要になってくる。確か、秋田県の生涯学習のHPでは、「学んだことを活かして行動していく。」といったことが書いてあったと思うが、そのような、成果を地域に活かすという視点も必要ではないか。方向性では若干触れているようではあるが。

**教育長**：いただいた意見を元に、検討を加えたいと思う。

会 長：他に意見が無いようなので、先に進む。続いて、「まちが元気」の施策について説明されたい。

#### □事務局説明(2)-2 (資料3 基本施策 13~22)

#### □説明事項の質疑応答

委 員：14 防犯対策で、防犯講習会参加者数が指標としてあり、現状で 387 人の参加者とあるが、この人数はどういった基準、例えば 1 回でこの人数なのか、何回かやってこの人数が参加しているものなのか。コロナ禍の巣ごもりの影響なのか、ここ 3 ヶ月被害に遭うお客様が出ている。「息子がけがをした。」などの特殊詐欺以外にも、点検業者を名乗って、業者と一緒に A T Mへ誘導し、お金をおろすという被害が発生しており、警察から防犯カメラを見せてほしいという事案が頻発している。1 人でもそういう詐欺に遭わないために、安全安心なまちづくりが必要だと思う。相談相手のいない、1 人暮らしの方が特に被害に遭うと思うので、こういった講習会をどのような単位で実施していくのが良いのかも今後考えていく必要があると思い、質問させてもらった。

会 長：高齢者、高齢者のみ世帯が増えていく中で、詐欺に遭わないための啓発事業も必要ということだと思う。

産業民生部長：町内会や老人クラブなどから防犯に関する講習をして欲しいという要望が生活環境課にあり、出前講座として講習会を実施している。引き続き多くの方にこのような講習を受けてもらいたいと考えている。

委 員：13 防災・減災のところで、現状・課題に「内水ハザードマップは未整備」とあるが、方向性では、「整備に向け情報の精査に努めます。」とあるので、前期の 5 年間では整備まではいかないということか。災害は皆さんの心配事項なので、もう少し前向きな記載の方が良いのではないかと思う。また、防災訓練の実施率が指標としてあるが、これは単純な実施割合なのか、それとも重複して実施したケースもカウントされているのか。訓練というのは繰り返した方が身に付くため、延べ参加者数の方が目標の達成度を図る指標としては適切なのではないかとも思うが、どのような指標が適当なのか検討いただきたいと思う。また、19 潤いのある景観の整備では、公園や花苗等の観点に絞ってあるが、景観というと看板の規制や宿場街の景観を活かすといった、もっと特色のあるところに踏み込んでいくとより良い街になるかなという思いがある。30 地域資源の活用の中では、海洋深層水などしかなかったと思うので、まだまだある魅力を掘り起こしていただければと思う。

建設部長：市では洪水ハザードマップは作成し公表しているが、排水路の排水能力が負けて浸水する場合があるということで、内水ハザードマップの作成という話も出ているが、県内でも作成されている団体は少ないと聞いている。洪水ハザードマップと内水ハザードマップの浸水エリアが重複しており、公表によって住民に混乱を与える恐れがあるため、公表する際は精査が必要と考えられる。また、主な取組みにも記載されているが、現在、県で第 2 期沖田川放水路の工事を実施しており、整備によって浸水が解消されるエリアも出てくるため、そう

いった面も注視し、情報を精査しながら進めていきたいと考えている。

**総務部長**：市内には自主防災組織が 112 あり、そのうち、1 年間で防災訓練を実施した組織数の割合を掲げている。複数回実施した場合にダブルカウントはしていない。防災訓練は、複数回、回を重ねることで迅速な対応を目指すものであるため、延べ参加者数というのも重要な視点ではあると思う。ただ、地域の防災訓練を、様々な行事がある中で、年に何回もできるかという難しい面もあるので、検討させていただきたい。

**事務局**：19 は公園・緑地に限ったものとなっており、委員が仰った宿場街などの風景・景観については、まだまだ魅力として出せるものはあると思う。そういうものについては、29 観光や 30 地域資源の活用という面で、今後、掘り起こしを頑張っていきたいと考えている。

**会 長**：22 持続可能な行財政運営で、将来負担比率の現状値が 7.9%で、目標値が 60%以下とあるが、これは尺度が違うのか。

**総務部長**：本来であれば、改善という方向であれば、この数値は下がるべきものであるが、算定式は簡単に言うと分母が標準財政規模で分子が将来負担額となっている。算定に当たっては様々な不透明な要素、例えば社会経済情勢や国の財政見通し等を考慮して算定しているが、分子の将来負担額からは基金残高を控除するが、現在 40 数億円ある基金も、今後の医療や介護の特別会計への繰出しが増加することや、今後想定される中滑川駅前整備や下水道等の整備によって減少していくと見込んでいる。そういったことを踏まえると、若干余裕を見ている部分もあるが、10~30%程度は現在よりも数値が上昇すると考えられ、そういった点も踏まえて数値目標を行政改革大綱において設定している。また、将来負担比率の健全度のイエローラインは 350%であり、そこから比べると随分低い数値にはなっている。

**会 長**：他に意見が無ければ、最後に「産業が元気」について説明されたい。

#### □事務局説明(2)-3 (資料3 基本施策 23~30)

#### □説明事項の質疑応答

**委 員**：所有者が不明な森林が増加し、整備・保全が進んでいないということだが、施策②に 24ha という目標値が掲げられているが、所有者不明の森林がこれだけあるということか。

**産業民生部長**：これは、計画的に間伐・枝打ち等を実施していく面積であり、所有者が不明な面積ではない。

**会 長**：それでは、所有者不明な森林はどの程度あるのか。

**産業民生部長**：今は、数字を持ち合わせていない。

**会 長**：「協働の視点」のところで、書きぶりが、どれも「~しましょう。」となっているが、市として、市民・団体に協働として「こういうことをやろう。」という内容を記載しているのか。例えば、「地域活動に参加する。」という書きぶりも考えられるが。

**事務局**：「こういうことについて、市に協力をお願いしたい。」という呼びかけで、こ

のような文体としている。本日お集りの各団体・機関の皆さんとも、何か一緒にできないか、考えさせていただきたい。そういう呼びかけとして記載している。

**副市長**：協働という背景で一緒に滑川を創り上げていきたいと思いますという思いがあり、施策全体について皆さんの協力・ご支援をお願いしたいという意図である。

**会 長**：意見も出尽くしたようなので、進行を事務局にお返しする。

**事務局**：山西会長ありがとうございました。今後の予定だが、週明け 28 日には市議会に本日の説明を行い、10 月 1 日から 1 ヶ月間のパブリックコメントを実施する。本日の計画案からの修正事項の確認は、委員を代表して会長にご一任したいがよろしいか。

#### <異議なし>

その後、パブリックコメントでの意見等を踏まえ、計画の最終案としてとりまとめる。修正内容については、11 月 13 日の第 5 回審議会で承認いただき、その後、会長から市長に答申をいただく予定としている。

**事務局**：本日はこれにて閉会する。委員の皆様、ありがとうございました。